

AAR Japan [難民を助ける会] × さぽうと21 設立40周年

「インドシナ難民を助ける会」発足時から、3,500人以上の難民などの学びを支えてきました。

卒業生、ご支援くださった支援者やボランティアの皆さまと一緒に、日本の難民支援の「これまで」と「これから」を語る座談会と同窓会を開催します。

- 日時：11月17日(日) 15時～19時
- 会場：日本青年館 8F カンファレンス・ルーム イエロー
※第2部は 9F レストラン (東京都 新宿区 霞ヶ丘町)
- 内容：第1部 15時～17時 座談会 第2部 17時～19時 同窓会(立食)
※参加費：大人 3,000円・子ども 1,000円

第1部は、2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業で実施します。



これまで、そしてこれからも…

難民などの外国にルーツのある学生たちの自立を応援していきたい。

速報 就職内定者の声

「外国人」という偏見の目

就職活動が始まるまでは、「自分が外国人」だということに自信をもてませんでした。これまで周りが、カタカナ混じりの名前をいじられたり、外国人というだけで、あからさまな偏見の目を持たれたりしてきました。本来の自分を私生活で見せることができず殻に閉じこもったように過ごしてきたように思います。

就職活動でさらけ出せた「素の自分」

就職活動を始めるにあたり、「本当に自分がやりたいことはなにか」、「自分は将来どうなっていたいか」など、将来について本気で考えるうちに、ブラジルというルーツがあるからこそ、今の自分があるのだと心から思えるようになりました。

外国人であることをマイナスに捉えるのではなく、「外国人だからこそ出来ることはなにか」と視点を変え、語学力や異文化に対する理解などの強みをアピールすることで、自信をもつことができ、ITと人材派遣関連の会社から内定をもらいました。

素の自分で就職活動に挑むことができた。一見簡単なことかもしれませんが、私にとっては大きな成長でした。



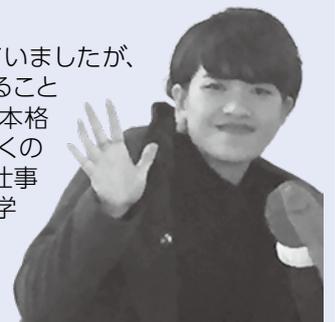
エドワルドさん
(滋賀大学 教育学部)

「ベトナム人」である両親と、「日本人」寄りの私

両親はベトナム人で、私は兵庫県神戸市で生まれ育ちました。在日外国人が多い町で、小・中学校では外国名の同級生も沢山いましたので、特に「外国人」だと意識することもなかったです。しかし両親は日本語と日本の習慣に苦労していたようです。私が日本人らしい考え方をするようになると、考え方の違いにお互い困惑しました。今やっと両親の考え方が少し分かるようになりました。

3月末から始めた就職活動

大学院に進学したいと考えていましたが、家族と何度も話し合い、就職することに決めました。既に就職活動が本格化し、焦りもありましたが、多くの企業を調べる中で、将来どんな仕事がしたいか真剣に考え、「大学で学んだことが直接活かせなくても、『長く働きたい』と思える企業を選ぼう」と決めました。そして今後需要が増すと思われるIT業界を中心に、説明会に参加しました。



トランさん(神戸女学院大学
環境バイオサイエンス学科)

長く働きたいと思える会社に出会えました。

内定をいただいた会社は、本社が東京です。試験等は兵庫県に近い支社で受けさせてもらったので、会社全体の様子を知ることができました。社内見学の際に、社員の意見で働きやすいオフィス環境に努めていることも好感がもてました。自分が携わりたいと思える仕事に出会うのはまだ先だと思いますが、多くのことを学び、私の意見も反映してもらえよう、頑張りたいです。

2020年度 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム、ご応募受付中です。

募集期間：2019年9月2日(月)～11月1日(月) / 学年：大学3年生以上、大学院



さぽうと21夏期研修会 開催報告

2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

外国にルーツがある学生たちが、日本で就職し安定した生活基盤を築くことを目標に、大学生向けの就職セミナーと、高校生向けの進路相談会を開催しました。また、参加者との個人面談も行い、進路選択、学費、就職活動などに関する相談に応じました。

日時	2019年8月15日(木) 11:00～17:00
会場	AAR Japan [難民を助ける会] 会議室(東京都品川区)
参加者	33名(高校生・大学生26名)



企業の人事の専門家に学ぶ 「仕事に役立つ基礎力」

株式会社ワイズ・インフィニティで人事・職員研修等を担当している永川 久弥氏を講師にお招きし、社会人としての心構えや必要な基礎スキルとは何か、参加者同士でグループワークを行いました。

参加者の声



グループごとに活発に意見を出し合い、発表。

- 社会人になる前に必要なスキルを濃縮して学ぶことができました。
- 年齢・ルーツが違うグループの中で、視点の多さにあらためて驚きました。
- 企業とは何なのか全くわからなかったもので、みんなと一緒に考えることによって、自分と違う考え方を吸収できたと感じます。
- 敏感に変化の兆しを捉えられるビジネスパーソンを目指します。

高校生のための進路相談会

「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」の受給生である大学生や大学院生7名(エチオピア、中国、ブラジル、ペルー出身)が、自身の進路選択を振り返り、学校の選び方や受験勉強、入学後の授業とアルバイトの両立などについて、身近な先輩としてアドバイスしました。

参加者の声

- 先輩達がどのようにして進学したか、自分と照らし合わせることができました。
- 大学でも社会に出ても、コミュニケーション能力が大切なんだと思いました。



難民として来日後、働きながら研究する先輩。



高校時代の夢が、大学院での研究につながっている。



さぼうと21の日頃の活動を、今年も多くの方に支えていただいています。

夏休み集中学習支援教室・4回目の夏を迎えて

さぼうと21が一般財団法人柳井正財団、明治学院大学「内なる国際化プロジェクト」と出会い、かねてから念願だった長期休暇を利用した「集中学習支援教室」実施が実現してから、早くも4回目の夏を迎えることとなりました。

2016年に小学校6年生から中学校3年生までを対象としてスタートした教室には、6つの国にルーツをもち、22名の子ども達が集まりました。2019年のこの夏、参加した子どもたちは総勢54名。4つの国にルーツをもち、飛び交う言語も、アラビア語、ビルマ語、英語、フランス語、リンガラ語（コンゴ民主共和国の首都キンシャサの共通語）、カチン語やチン語（ミャンマーのカチン民族やチン民族の母語）など様々。参加する子ども達の学年も上下に広がっていき、今年度は、小学



初参加の小学5年生ががんばる！

校3年生から高校既卒生までが参加しています。開始当初、小学校6年生だった子どもたちは、今年度は高校入試を控え

た中学3年生となり、当時高校入試に向けてがんばっていた中学3年生は、今年度は大学進学を目指す高校3年生となりました。



武蔵野大学の学生さん、お世話になりました！

「財団」と「大学」と「非営利団体」が、難民的背景をもち日本に暮らすこととなった子ども達を、教育の面で応援していこうという一つの目的のために、何度も何度も話し合いを重ねながら事業を続けてきました。今年度は、武蔵野大学の神吉宇一先生もご協力ください。小学校3年生と4年生は夏休みの3日間、有明の武蔵野大学で大学生と一緒に夏休みの宿題に取り組みました。大きな夏休みの思い出です。また、財団の柳井正理事長は、ご多忙を極める中、毎夏欠かさず、子ども達に直接お話を伺う時間をとってくださっています。2019年の夏は、有明のユニクロ本社を皆で訪ねました。

子ども達を見守るたくさんの「まなざし」が子ども達の成長を支えてくださっていると感じています。

パソコンの買い替えと、ネット環境の整備

株式会社 東京スター銀行 様 や、日本アイ・ビー・エム 株式会社 様からのご寄付により、パソコンの買い替えと、ネット環境の整備が進められます。日頃の業務はもちろん、土曜日の学習支援室での授業など、パソコンを使う機会が多くあります。いつも勉強を頑張っている、幅広い年代の学習者のニーズに応えられるよう、大切にさせていただきま

- 作文をパソコンで書かないといけないけど、家にパソコンがないから使わせてください！（学習者）
- Mちゃんの夏休みの宿題に「調べ学習」が出されましたが、さぼうと21にパソコンがあったおかげでなんとか間に合いました！（ボランティア）
- Aさんとパソコンの授業をしていた時に、海外ニュースを見る方法を聞かれました。情勢が安定しない母国の状況を気にする様子に、何とも言えない気持ちになりました。（ボランティア）

いつもの活動を継続し、より良い活動にしていくために

ファースト・パンフィック・キャピタル有限会社 様 より、今年もご寄付を頂戴しました。さぼうと21の事業に賛同し、浄財を託して下さるお気持ちに感謝申し上げます。より良い活動が出来るよう、努めてまいります。

2日間ともに完売！合計438杯！

今年も、日本最大級の国際協力イベント 「グローバルフェスタ」に出展しました。

皆さんには、食べると元気が出る「ソウルフード」はありますか。さぼうと21の学習支援室には、毎週100名近くの学習者とボランティアが集います。

学習者の国籍は様々ですが、最も多いのは、80年代の軍事政権下で祖国を逃れたミャンマーの人たちです。ミャンマーには135の民族が暮らしていると言われますが、その中でも最大のビルマ族のソウルフードに、「モヒンガー」という麺料理があります。魚の出汁が効いたスープは、日本人にも馴染みやすく、揚げたヒヨコ豆のサクサクした食感とパクチーの香りが食欲をそそります。

学習支援室のボランティアと学習者が「カフェチーム」を結成し、さぼうと21版「モヒンガー」を、毎年グローバルフェスタで提供しています。

毎年、ご家族でイベントに協力してくださっている学習者の方にインタビューしました。



料理教室での試作品「モヒンガー（ミャンマーの麺料理）」



無事に完売してほっと一息のNさん。ご主人は厨房、Nさんとお子さんは接客に大忙しの日でした。当日は日差しが強かったので、頬に塗ったミャンマー伝統の天然化粧品「タナカ」で日焼け対策もばっちり！

Q. Nさんにとって、モヒンガーはどんな存在ですか。

私たちミャンマー人にとって、モヒンガーは「朝ごはん」です。私たちにとっても近い食べ物です。日本人にとっての寿司のようです。グローバルフェスタでは、細うどんを使いますが、ミャンマーでは白で挽いた米の麺を使います。日本の生蕎麦みたいですが、味は地域で色々ですが、よく煮込んだ魚のスープにコシのある細麺が絡んでとても美味しいです。ミャンマー人が大好きなモヒンガーを、ここ日本でみんなに紹介できるのが、とても嬉しいです。

Q. 毎年ご家族みなでお手伝いして下さいますが、その理由を教えてください。

日本で困ることも沢山あります。でも、さぼうと21のボランティアの人にいつもサポートしてもらって、相談することもできます。家族みんな、とても助かっています。自分もサポートしてもらっているので、外国人である自分が手伝えることがあったらいいです。特に「ミャンマーの麺料理、美味しいよ！」と、自分の国の料理を日本人に紹介する時、とても誇らしい気持ちになります。それがいつも嬉しいです。

開催概要

- 日程：2019年9月28日（土）・29日（日） 10:00～17:00
- 会場：お台場センタープロムナード（東京都江東区青海1-2）
- 助成：2019年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.68 2019.11

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は…

認定NPO法人難民を助ける会 (AAR Japan) を母体に、その国内事業を受け継ぎ、社会福祉法人として1992年に設立されました。

日本で生活する難民やその家族、定住外国人などの相談に乗り、学業継続のための就学支援や学習支援など、自立を後押しする活動を行っております。また、日本人の学生には、pp奨学金を2017年度から実施しています。

私たちの活動を応援してくださる方を求めています！

■会 員：法人会費50,000円／個人会費5,000円

■ご寄付：随時受付

■マンスリーサポーター：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうと21 じゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうと21 じゅういち
三菱UFJ銀行	目黒駅前支店(普) 1390060 名義：社会福祉法人 さぼうと21 じゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

社会福祉法人 さぼうと21

住所：

〒141-0021
東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル6階

TEL：

03-5449-1331

FAX：

03-5449-1332

E-mail：

info@support21.or.jp

URL：

http://www.support21.or.jp

